

## 荒川ダム群等の現状と今後の見通しについて



浦山ダム(平成28年10月24日撮影)

平成28年10月31日

関東地方整備局

# 1. 荒川上流4ダム等の現状

## (1) 秋ヶ瀬地点上流平均降水量の状況（平成28年10月27日までの降水量）

平成28年4月以降の秋ヶ瀬地点上流域平均降水量は、4月、5月、6月及び7月が平均値を下回りました。なかでも、5月の降水量は44mm（平均値（昭和40年～平成27年）に対する割合は38%）であり、昭和40年以降の52年間で2番目に少ない値となりました。また、7月の降水量は90mm（平均値（昭和40年～平成27年）に対する割合は49%）であり、昭和40年以降の52年間で4番目に少ない値となりました。

10月の降水量は27日までの累加で24mmとなっています。（10月の降水量の平均値は147mm）

（図-1、表-1参照）

図-1 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量

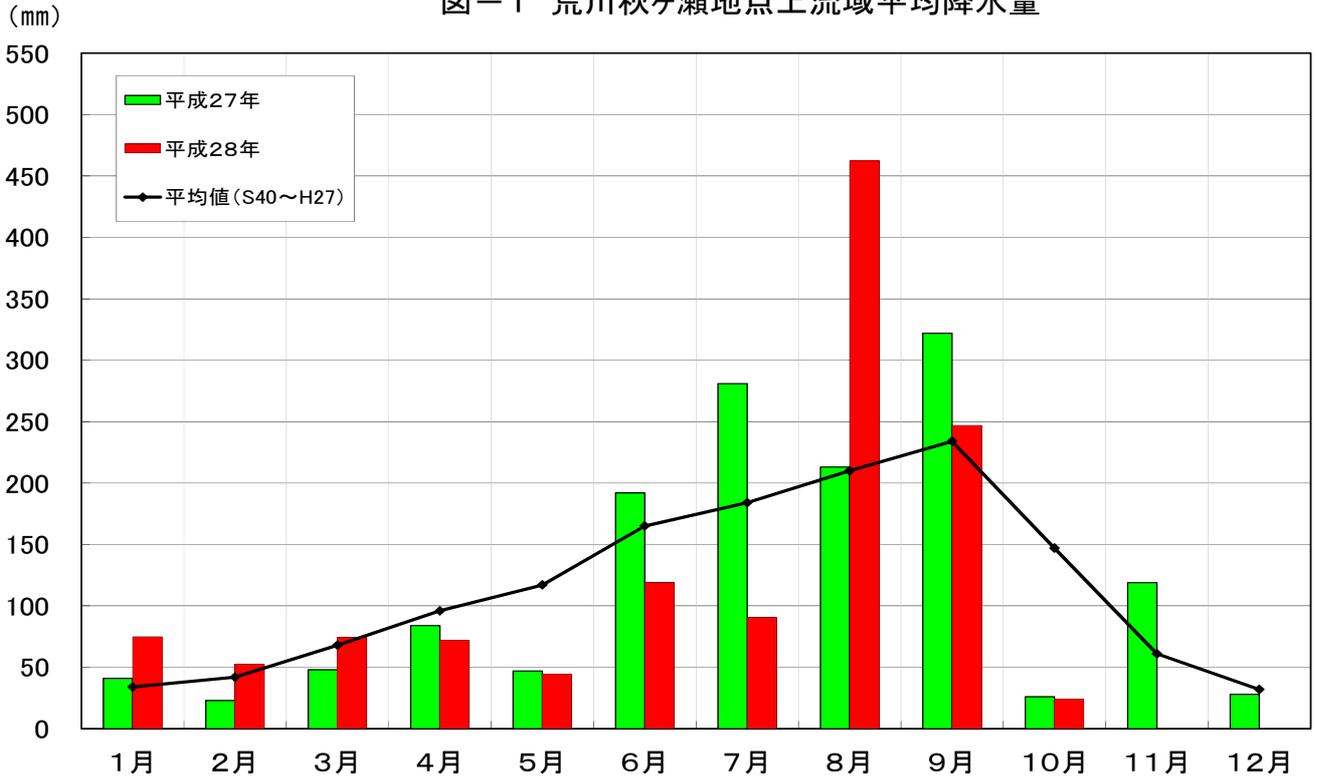


表-1 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（平成28年10月27日まで）

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川・荒川夏渇水
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657	利根川・荒川夏渇水
平成4年	26	15	118	136	117	250	87	177	63	285	52	29	1,355	荒川夏渇水
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏渇水
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川・荒川夏渇水
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏渇水
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川・荒川冬夏渇水
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055	利根川・荒川冬渇水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏渇水
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335	利根川夏渇水
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1,249	利根川夏渇水
平成27年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1,424	
平均値 (S40-H27)	34	42	68	96	117	165	184	210	234	147	61	32	1,390	
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	24			1,261	
平均値に対する割合 (%)	220	125	109	75	38	72	49	220	106	16				

※. 荒川取水制限実施月（一時緩和を含む）

※. 秋ヶ瀬上流域面積 2,021 km<sup>2</sup>

(2) 荒川上流4ダムの貯水状況等（平成28年10月28日0時現在）

平成28年の荒川上流4ダムは、5月中旬より都市用水や農業用水の需要を確保するために、ダムに貯留した水を補給しました。その結果、8月17日には貯水量が4,371万m<sup>3</sup>まで低下しました。

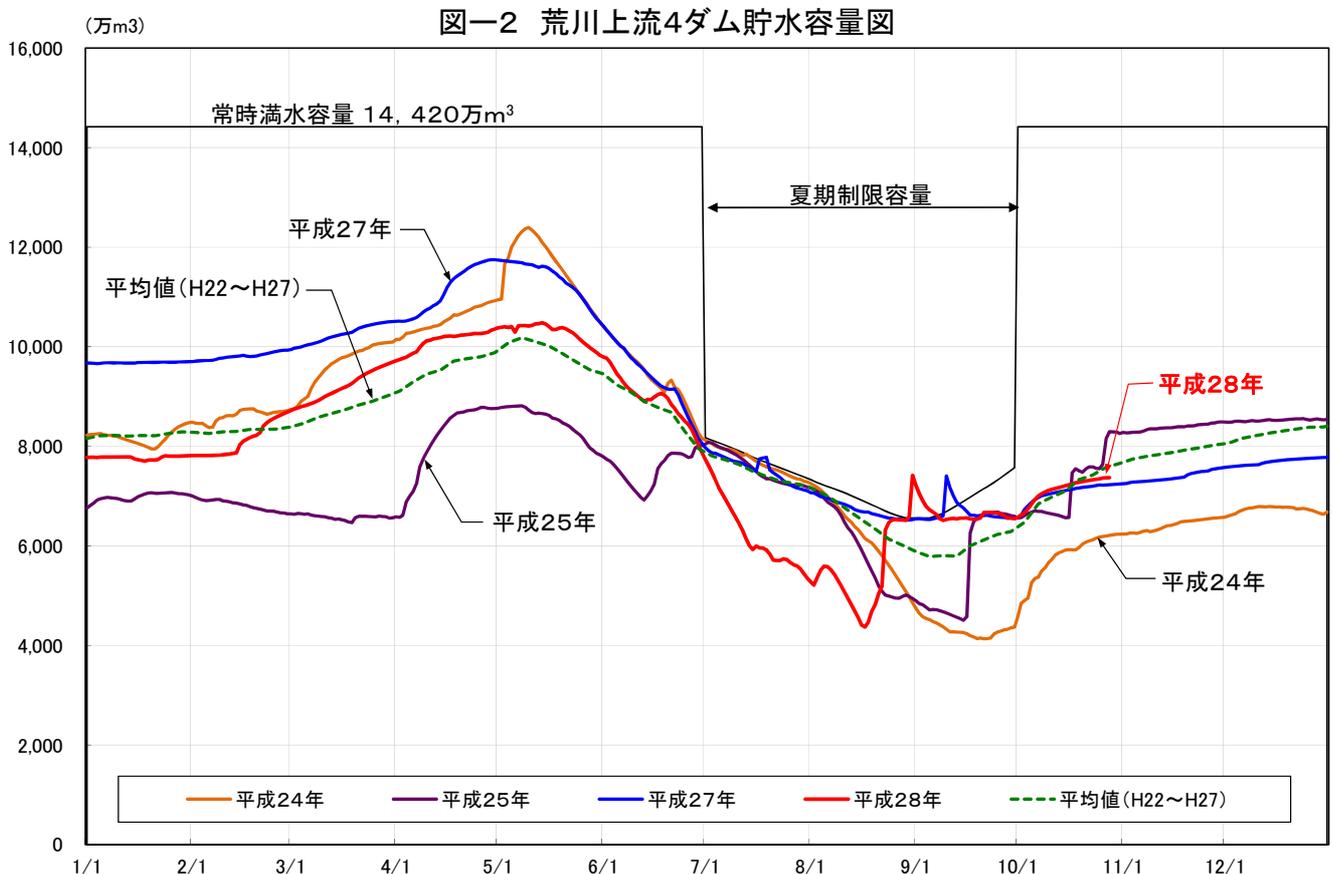
10月28日0時の貯水量は、7,373万m<sup>3</sup>、貯水率51%（貯水量の平均値（平成22年～平成27年）に対する割合は97%）です。

（表-2、図-2参照）

表-2 荒川上流4ダム貯水量  
平成28年10月28日0時現在

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)
二瀬ダム	2,000	57	3	3
滝沢ダム	5,800	2,819	49	-6
浦山ダム	5,600	3,535	63	-2
荒川貯水池	1,020	962	94	1
4ダム合計	14,420	7,373	51	-4
4ダム合計の平均値 (平成22年～平成27年)		7,610	(平均値に対する割合 97%)	

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。）



## 2. 今後の見通し及び対策

### (1) 見通し

- ① 平成28年10月27日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(10月29日から11月28日までの天候見通し)によると、平年に比べ晴れの日が多く、向こう1ヶ月の降水量は「平年並」または「少ない」確率ともに40%となっています。また、10月25日気象庁発表の3か月予報(11月から1月までの天候見通し)によると、11月の天気は平年と同様に晴れの日が多く、降水量は「少ない」確率40%となっています。12月も平年と同様に晴れの日が多く、降水量は「平年並」の確率40%となっており、1月も平年と同様に晴れの日が多く、降水量は「平年並」の確率40%となっています。

なお、9月23日気象庁発表の寒候期予報(10月から2月までの天候の見通し)によると、平年と同様に晴れの日が多く、降水量は「平年並」の確率40%となっています。

#### 1か月予報(平成28年10月27日発表)



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

#### 3か月予報(平成28年10月25日発表)



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

#### 寒候期予報(平成28年9月23日発表)

〈冬(10月~2月)の気温、降水量の各階級の確率(%)〉



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

- ② 荒川上流4ダムのうち、二瀬ダムは施設の維持管理に必要な工事を実施するため、貯水量を制限した運用を行っていますが、12月末までには工事制限水位を解除する予定です。

また、一般的に冬期の降水量が少なくなることから、下流域の水需要を満たすためにダムからの補給が予想されます。

### (2) 対策

- ① [荒川水系におけるダム群の貯水量の確保]

今後は、荒川流域の降雨状況や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、荒川ダム群の貯水量や降水量の状況、必要に応じて工事の進捗状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

- ② [荒川水系渇水調整協議会の取り組み]

荒川水系渇水調整協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

### 3. 非洪水期における工事制限水位等について（予定）

